PRINT ISSN: 2436-8296
ONLINE ISSN: 2436-8288

湘南工科大学教職センター年報

第 2 号　2023 年

やりたいことを、できることに。
湘南工科大学
SHONAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

湘南工科大学教職センター年報

第 2 号（2023 年 2 月）目次

教職センター活動報告

第 4 回教職ワークショップ開催報告　佐藤　博之　北見　由奈　原　圭寛　垣地　史朗　飯田　薫　2

寄稿

情報の信憑性に関する知識習得のための授業実践
――高等学校情報科及び総合的な探究の時間などにおける ICT 活用の基礎として――　原　圭寛　5

教育実習の記録

技術・家庭科（技術分野）　10

数学科　71

情報科　140

※「教育実習の記録」については冊子版のみの掲載とし，オンライン版では掲載しません。冊子版の閲覧をご希望の方は，湘南工科大学教職センターまでお問い合わせください。

第 4 回教職ワークショップ実施報告
――3 年ぶりの開催を終えて――

佐藤　博之（湘南工科大学教職センター・センター長）
北見　由奈（湘南工科大学教職センター・准教授）
原　圭寛（湘南工科大学教職センター・講師）
垣地　史朗（湘南工科大学教職センター・特別講師）
飯田　薫（湘南工科大学教職センター・特別講師）

1 はじめに

本稿では、令和 4 年 11 月 26 日に開催された「第 4 回教職ワークショップ」の実施報告をおこなう。オンライン開催ではあったが、3 年ぶりの企画・実施であった。参加者は総勢 68 名であった（内訳：卒業生 8 名、学生 50 名、教職員 10 名）。以下にプログラム内容の詳細について報告する。

2 第4回教職ワークショップの実施要項

2.1 位置づけと目的

本学の教職センターは 2017 年度 4 月に発足し、それと同時に「教職ワークショップ」がスタートした。その位置づけと目的は当初から変わることなく、「本学を卒業した中高の現役教員によるネットワーク構築および今後の持続的展開」と、「現役教員から教員を目指す学生への意識喚起」を趣旨としている。特に本年度の開催にあたっては、これまでの 2 年間はコロナ禍の影響で開催中止を余儀なくされていたが、前回の教職ワークショップを参加経験した学生が 4 年次生となった今、学生の縦のつながりを「継承」するためには、途絶えさせることはできなかったといった事情もあった。

2.2 プログラムの内容

日時・方法：11 月 26 日（土）、13：00～15：00、オンライン開催
内容の詳細：
　第 1 部：講演会
　-「教職センターのこれまでの歩み」北見由奈准教授
　-「教員としてのキャリアプラン：現役教員の先生とこれから教員を目指す学生へ」垣地史朗特別講師
　第 2 部：交流会
　-ワークショップテーマ「学生の教職に関する疑問を現役の先生に聞いてみよう」
　　※ブレイクアウト・セッション

3 第4回教職ワークショップの開催報告

3.1 第1部内容

●「教職センターのこれまでの歩み」北見准教授

本年度は教職センター発足 5 周年を迎えるにあたり、これまでの活動内容（足跡）について説明があった。学生主体の複数活動について紹介があり、中には教職ワークショップをはじめとした卒業生との繋

がりを重視したイベントについて、特色説明があった。また、教員免許状授与の状況や教員採用数の情報について報告があった。さらに今後の方向性として、「ICT を活用した指導力の強化」を意識した取り組みについて説明が加えられた。

●垣地史朗 特別講師による基調講演

本学教職センターの特別講師である垣地史朗先生は、中学技術科の教員として長く現場で生徒指導をおこなっていた経験豊富な方であり、校長職や教育行政での指導主事などのご経歴もある。当日は『教員としてのキャリアプラン』と題して、講話の中身ではご自身の歩まれた足跡を振り返られ、タイミング・タイミングでどのような心境で取り組み、何が得られたのかといった、教員を目指す学生には勿論のこと、参加された現役教員の先生方にとっても（ここは多分に推察を含むが)、非常に示唆に富む内容を拝聴することができたものと考えている。

3.2 第2部内容

第 2 部の最大の目的は、教職課程を履修する学生たちが、当日参加されたロールモデルとしての現役教員の卒業生にインタビューすることで、「自分（学生）のキャリア形成を考える上での気づきを得る」ことであった。

オンラインのブレイクアウトルームには、少なくとも現役教員の卒業生が 1 名以上となるように配置し、学生たちも各学年幅広く配置するグループ分けとした。3 年生および 4 年生の参加学生がファシリテーション役となり、学生が感じる不安（部活動指導の業務はどうなのかなど）や素朴な疑問（卒業生が当時学生時代に教職に進路を定めた際の気持ちなど）を訊ねる様子が複数のルームで確認された。

3.3 アンケート集計結果

参加された卒業生からのアンケート結果、および学生からのアンケート結果について、以下の通りまとめる。

●卒業生参加者の結果（主に記述内容の要約）：

概ね好意的な記述回答であり、「大学の近況報告」「教職を目指す最近の学生気質」などを伝えることができたものと考えている。また、特にワークショップにおいては、その効果を最大化させるために「対面実施」を希望される回答があったので、次回は対面実施で企画・準備を進めていきたいと考えている。

表 1 ：現役教員参加者からの声（一部要約抜粋）

基調講演、および教職センター近況について@第 1 部	・学び続ける姿勢を持ち続けることの大切さを改めて気づいた ・大学の状況を知ることができて良かった
参加学生とのワークショップについて@第 2 部	・多くの質問があったので学生さんたちの真剣さが伝わってきた ・オンラインということでカメラ off 対応も多かったのが残念 ・対面実施の方が望ましい ・時間が短かった（もっと学生さんたちと対話したかった）

●学生参加者の結果：

第１部および第２部の満足度の集計結果である。どちらも高い満足度であったことがわかる。さらに、記述内容で複数見られたキーセンテンスをまとめた結果を以下に示す。

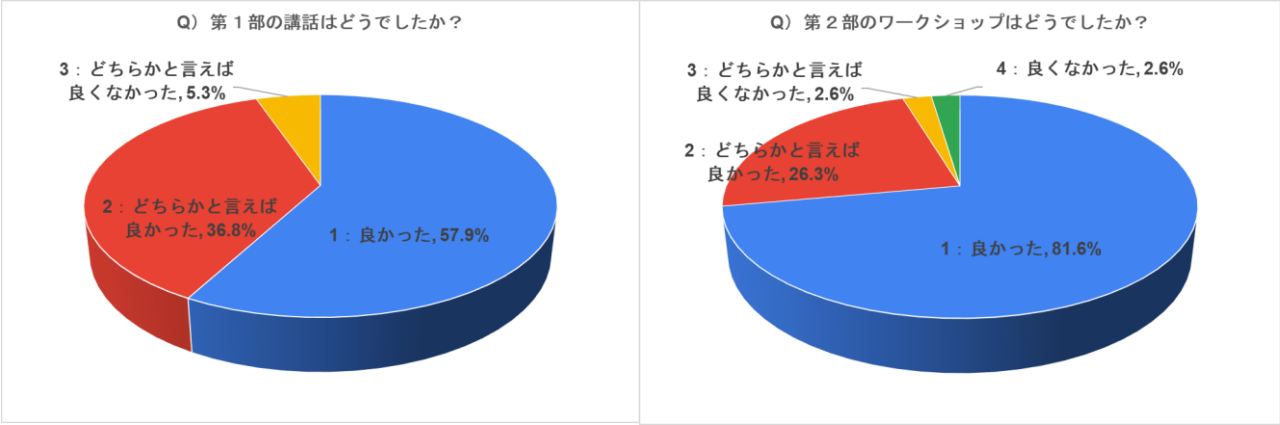

図１　学生参加者の満足度調査

表２　学生参加者からの声（一部要約抜粋）

基調講演、および教職センター近況について（第１部）	・教師を目指すにあたり、どのような能力が求められるかを理解することができた ・大学（教職課程）の歴史を知ることができて良かった
現役教員（卒業生）とのワークショップについて（第２部）	・現場の先生の意見は貴重で、話を聞いて自分の考え方が広がった ・生徒とコミュニケーションを取るうえで配慮している点や授業計画のこと、部活を指導する上で難しい点など、教員になってからしか分からない話をたくさん聞くことが出来た ・同じ教職目指す先輩たちのリアルな意見を聞くことができた（例えば模擬授業の不安なところなど） ・次回は対面でやりたい

4　さいごに

この度はオンラインではあったが、このようなワークショップを企画して、多くの卒業生の方々、および教職を目指す学生、関係教職員が一堂に会して実施できたことは、何より卒業生の皆様のご支援があってのことであると考えている。当日は時間の関係で、参加者の方々には多少の消化不良（もっとやりたかったというご意見を多数頂いております）もあったと思われる。アンケート回答にも多数あった「次回は対面実施」を実現すべく、次年度企画を進めていきたいと考えている。そして、これまで以上に様々な形で卒業生の方々と積極的に繋がる施策を講じて、新しい湘南工科大学のブランドを構築していきたいと考えている。

情報の信憑性に関する知識習得のための授業実践
――高等学校情報科及び総合的な探究の時間などにおける ICT 活用の基礎として――

原　圭寛（湘南工科大学教職センター・講師）

1 はじめに

本稿は、令和 4 年 5 月から 6 月にかけて高校生を対象に筆者が行った、「情報の信憑性」に関する授業の記録である。

周知のとおり、平成 29・30・31 年改訂学習指導要領より、生徒による「主体的・対話的で深い学び」が謳われ、更には GIGA スクール構想により、中学校においては 1 に 1 台のデバイス配布、高等学校においては BYOD (Bring Your Own Device) による、授業への ICT 導入が急速に進んできた。こうしたなかで各教科及び総合的な探究の時間で積極的に導入されている活動の一つが、いわゆる「調べ学習」である。しかし単に生徒が思いついた検索ワードで Web 検索を行っても、上位に信憑性の不確かなサイトが並んでしまうなど、信憑性のある情報を探し出すのは容易ではない。

そこで本授業は、高校生のうちに最低限知っておくべき情報の信憑性の確認方法を、2 校時分の授業を用いて身につけさせることを目的とした。

2 授業の概要

2.1 本授業の位置づけと目標及び内容

本授業の対象は湘南工科大学附属高等学校技術コース 1 年生で、「学校外活動」のうちの 2 校時分を 4 クラスに対して行った。同校技術コースは高等学校 3 年間と大学 4 年間の 7 年間一貫教育を提供するコースである。このため同コースは正課内の「学校外活動」において、湘南工科大学との連携授業を設置し、高校教員と大学教員が協働で高校生の授業を担当することとなっている。

令和 4 年度からの新学習指導要領実施にあわせたカリキュラム改訂により、「学校外活動」において「基礎探究」（1 年次必修）、「情報・工学探究」（2 年次必修）、「情報探究」「工学探究」（3 年次、2 科目のうち 1 科目を選択）が設置され、生徒は高校 3 年間を通してこの授業を受けることとなった。これらの授業の目的は、最終的には生徒が自ら課題を発見し、これを解決すること、またこれに応じた大学の学部・学科選びができるようになることである。そのため 3 年間全体を通じ、生徒たちによる調べ学習などを基調としたアクティブラーニングを実施している。

本授業はそのうち 1 年次配当の「基礎探究」の 1 学期に、これらの基礎づくりを目的として考案されたものである。加えて当該の「学校外活動」のみならず、今後全校的に行われる ICT の活用の基礎、特に情報科及び「総合的な探究の時間」の基礎となることを期待したものでもあった。

授業は以下のように進行した。

1. 5-6 名で 1 つのグループをつくり、直近のニュースなどからトピックを 1 つ決める。
2. 決めたトピックについて検索キーワードを考え、メンバーに割り振る。

3. 各メンバーが iPad を用いてページを検索する。
4. ヒットしたページをいくつかピックアップし、ワークシートにページ作成者名、信憑性の評価（A～C の 3 段階）とその理由を書く。その際、「明らかに信憑性がなさそうなサイト」というものを同時に調べ、その理由も書いたうえで信憑性のあるサイトと比較する。
5. グループ内で検索結果を突き合わせ、クラス全体の前で発表する。
6. 生徒が提示した「信憑性の根拠」に対して授業担当者が講評を行い、改めて「信憑性がある情報の条件」を提示する。
7. 提示された「信憑性がある情報の条件」を基に、生徒は調べたサイトの信憑性を再評価する。

2.2 実際の生徒の反応と教員の対応

実際に生徒が書いたワークシートや発表においては、その情報を「誰がいつ発信したか」という点よりも、その情報に書かれていることが具体的であること、問題に対する解決策を断言していること、画像や映像を用いていること、などを「信憑性が高い」と評価する傾向にあった。そのため講評の際には、具体的に詳述したからと言ってそれが本当のことだとは限らないという点、直近の問題に対してすぐにその解決策が出ることは稀で、専門家になればなるほどいろいろなパターンを考えるのでかえって断言を避ける傾向にある点、映像や画像などは簡単に加工できるうえ、切り取り方次第で全く異なる印象を与えうる点などを説明した。

そのうえで、情報の信憑性のチェックにあたっては、1）誰がいつ書いたかがわかる、2）その情報を書いた人が専門家または公的機関である、3）公式なルートで出版・掲載されている、4）根拠が示されており、矛盾がない、5）提示された根拠を自分で確認できる、の 5 点を挙げ、特に高校生のうちは 1)～3)を必ずチェックするように、といった指導へと結びつけた。

3 おわりに

本授業を受けた生徒たちは、その後の授業において調べ物をする際も、その情報を「いつ、誰が書いたか」という点を意識するようになった。しかし、筆者は当該授業を 1 学期中しか受け持たなかったため、こうした意識を生徒たちが依然として持ち続けているかは不明である。今回は担当初年度という事もあり、おおよそどのような反応があったかを記述するにとどめたが、今後は授業にあわせた質問紙調査なども取り入れ、より具体的に本授業の効果を測定できるような仕組みを取り入れたい。

謝辞

本稿掲載にあたり、湘南工科大学附属高等学校より、学校名を出しての掲載許可をいただいた。この場を借りて御礼を申し上げる。

添付資料

- 学習指導案（略案）
- ワークシート

学習指導案(略案)

1. 日時・場所：　　金曜日 1 校時・2 校時（9:00～10:25、移動時間を除く）
2. 学年・組・人数：
3. 本時の学習目標：
   ・情報の信憑性について理解する。(知識・技能)
   ・ネット上の情報を、信憑性を基準に取捨選択できるようになる。(知識・技能)
4. 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 10 分	・前時の振り返り	・グループごとに前の時間の内容について話し合って振り返りを行う。	
展開 1 35 分	・トピック決め （目安：5 分） ・情報検索と信憑性の評価 （目安：20 分） ・発表準備 （目安：10 分）	・各グループで直近のニュースで興味を持ったものを出し合い、1 つに絞る（ワークシート 1） ・検索のためのキーワードを考えて、グループ内で割り振る（ワークシート 2） ・出てきたページの「信憑性」を A～C で評価し、その理由を書く。また、ページの URL を QR コードから送信する（ワークシート 3） ・信憑性のあるページの条件をグループで出し合い、ホワイトボードにまとめる。	・トピック決めに時間がかかりそうであれば教員が介入し、多様な情報が出てきそうかつ調べやすそうなトピックに誘導する。 ・適切な検索キーワードが出てこないようであれば教員がヒントを出す。 ・あえて「嘘っぽい情報」「胡散臭いサイト」についても調べさせる。
展開 2 30 分	・発表 （3 分 x 6G=18 分） ・信憑性のある情報の条件 （12 分）	・各グループ 1 分～1 分半程度で、展開 1 でまとめたことを全体の前で発表する	・教員は発表に対して随時コメントをし、後に板書する内容に誘導する。

		・板書された「信憑性がある情報の条件」をワークシート４に書きうつす	
まとめ 10 分	・本時の振り返り	・本時で学んだことについて、ワークシート裏面に記入する。	

5.　スライド

今日やること

1．グループでトピックを決める
　⇒ 決めたトピックをプリント1.に記入
2．そのトピックについてiPadで調べる
　⇒ 検索ワードをプリント2.に記入
3．出てきたページの信憑性を評価
　⇒ プリント3.に記入、URLを送信
　　A:信用できる
　　B:判断できない
　　C:信用できない
4．3.を基に信憑性のある情報の条件を
　グループで話し合い、ホワイトボードに記入
　※ プリント4.にはまだ記入しない

個人作業

2

4．信憑性がある情報の条件

- 誰が、いつ書いたかがわかる
- 書いた人が専門家または公的機関である
- 公式なルートで出版・掲載されている

必ずチェック

- 根拠が示されており、矛盾がない
- 示された根拠を自分で確認できる

専門家にならないと難しい

8

情報の 信憑性(しんぴょうせい) を考えよう

1年＿＿＿＿＿組＿＿＿＿＿番　氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

【本日のキーワード】 信憑性：調べた情報が正確かどうか、どの程度信頼できるかの度合い

1．グループで調べるトピック

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．検索に使ったキーワード

・

・

・

3．出てきたページと信憑性の有無・その理由

ページのタイトル	ページの制作者・制作年月	信憑性（A～C）	理由

4．信憑性がある情報の条件

・

・

・

・

・

調べた Web ページの URL をここに提出▼

QR コードをここに掲出

湘南工科大学教職センター年報　第 2 号
2023 年 2 月 8 日印刷・発行

編集兼発行：湘南工科大学教職センター
〒251-8511　神奈川県藤沢市辻堂西海岸 1-1-25
https://www.shonan-it.ac.jp/faculties/technology/education/

印刷：株式会社宮崎印刷所
〒253-0084　神奈川県茅ケ崎市円蔵 370（茅ケ崎機械金属鉱業団地）
https://miyazaki-insatu.co.jp/